

日光に移住して起業
自分の知識と経験を活かして



天野 琢也(34歳)
あまの・たくや▶佐賀県出身。
2013年1月に起業し、現在6
年目。海外での就業経験を活か
し、ゲストハウス「sleping. 日
光稲荷」を営む。



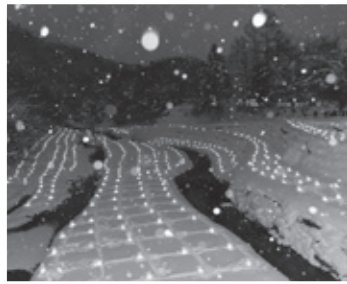
九州出身の私でも、「日光」と
いう名前は聞いた事がありまし
た。身近に世界遺産などの観光資
源も多く、東京からのアクセスも
いい。他の観光地と比べても、家

賃などの固定費が安く開業しやす
かったと思います。起業するため
のプラットフォーム(環境)が整っ
ていますし、こんなに資源がある
のに、利用している若者が少ない

など感じています。
一方で、空き家があるのに、物
件を借りる事にハードルがあるよ
うに感じました。今は一緒に働い
てくれる人を募集中です。

くりやまGO企画

元地域おこし協力隊
栗山のために、自分ができることを

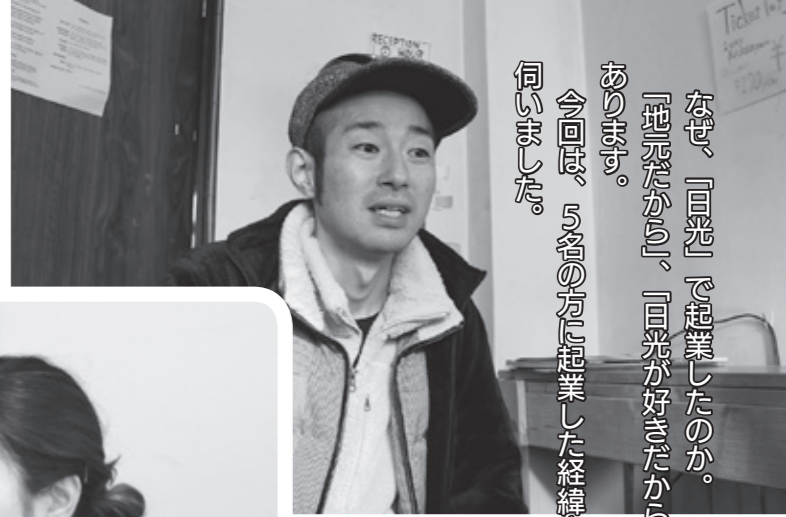


青山 裕之(38歳)
あおやま・ひろゆき▶群馬県
出身。2011年に地域おこし
協力隊として栗山地域へ移住。
2015年4月、協力隊卒業を
機に起業。

地域おこし協力隊として3年半
栗山地域の方々にお世話になり、
任期終了後も栗山で生活し続けたい
という強い気持ちから、栗山で
起業しました。

前職での経験を生かして、自宅
でできるインターネットを使った
Web制作という仕事を選びまし
た。現在は仕事仲間を通じて市外
の仕事も受けています。自由な立

場だからこそ、組織では動けない、
栗山の人々に密着した仕事もでき
ます。手探りなところもありますが、
おもしろいことができるのも
起業の魅力ですね。



なぜ、「日光」で起業したのか。
「地元だから」、「日光が好きだから」...それだけ「なぜ」を理由が
ありません。
今回は、5名の方に起業した経緯や良かった事、苦労した事などを
伺いました。



きょうさんじん げんごろう
蕎山人 玄五郎

セカンドキャリアは日光で
素材にこだわる玄五郎



菅原 潤(55歳)
すがわら・じゅん▶大室在住。
俳優・サラリーマンとして働
いていたが、早期退職をし、
2017年1月にそば店を起業。

サラリーマン時代は会社からの
指示で利益を優先し、仕事をして
いました。今は素材にこだわり、
お客さんのリクエストに応えられ
るように仕事をしています。

起業するにあたって、大変だっ
た事は金銭面と、認知されるまで
時間がかかる事でした。金銭面
では、自分でお店の壁を作るなど経
費を節減しました。ありがたいこ

とに口コミで徐々にお客さんも増
え、現在は市外からのリピーター
さんもいます。これからもお客さ
んが飽きないように工夫をしながら、
さらに頑張っていきます。